

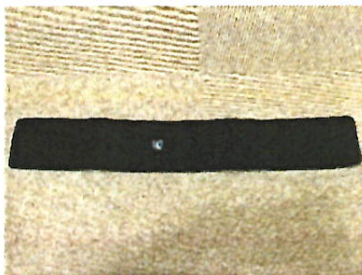
あけましておめでとうございます！今年の一月は例年より雪が少なく、過ごしやすい月になりそうですね！

今月は、この寒さにちなんで、哺乳子牛の寒冷対策について書いていこうと思います。

なぜ子牛が寒さに弱いのかというと、体の面積が少なく熱を奪われやすい、体脂肪が少なく筋肉質な上、ルーメン（第一胃）が未発達なので発酵熱が少ない。というのが理由に挙げられます。牛舎のすきま風や周りにある冷たい物に触れるだけでも大きく体の熱を奪われてしまいます。牛も人間と同じで体が冷えてしまうと風邪や下痢などの症状がでてしまい最悪の場合、死に至ってしまうこともあります。

対策としては、カーフウォーマーの設置、敷料を厚めに敷いてあげる、すきま風を防ぐ、カーフジャケットやネックウォーマーを着けてあげる、保温機を設置するなど、たくさんの対処方法があります。

風が少なく温かい日は外に出して日光浴をさせてあげると、子牛が紫外線を浴びて体内からビタミンDを産生します。ビタミンDはカルシウムの吸収を助け、骨を強くしてくれる効果があります。さらに紫外線には殺菌作用があるので皮膚病の予防にもなります。



このネックウォーマーは電熱線が入っており、温かい状態を持続させてくれるネックウォーマーです。



一生懸命生まれてきた子牛たちが健康で大きく育っていけるよう、カーフジャケットやネックウォーマーの取り扱いもしておりますので、お気になられた方がいらっしゃいましたらいつでもお声をかけていただくと幸いです。

自分もこの寒さに負けず健康な体で今年も業務に励んでいきますので、酪農関係の皆様、今年も宜しくお願い致します。

川上 晃平